

地球温暖化対策実施状況報告書

2019年 6月 26日

（報告先）
横浜市長

住所 横浜市青葉区荏田西1-3-20

氏名 ライフカード株式会社
代表取締役 北之坊 敏泰

（法人の場合は、名称及び代表者の氏名）

横浜市生活環境の保全等に関する条例（以下「条例」という。）第144条第2項の規定により、次のとおり報告します。

1 地球温暖化対策事業者等の概要

事業者の氏名又は名称 （代表者の氏名）	ライフカード株式会社 代表取締役 北之坊 敏泰				
事業者の主たる 事業所の所在地	東京都港区芝二丁目31番19号 バンザイビル				
主たる事業の業種	大分類	J 金融業・保険業			
	中分類	64 貸金業、クレジットカード業等非預金信用機関			
該当する 事業者の要件	<input checked="" type="checkbox"/>	条例施行規則（以下「規則」という。）第89条第1項第1号該当事業者			
	<input type="checkbox"/>	規則第89条第1項第2号該当事業者			
	<input type="checkbox"/>	規則第89条第1項第3号該当事業者			
	<input type="checkbox"/>	地球温暖化対策事業者以外の事業者（任意提出事業者）			
	原油換算エネルギー使用量	1,566	kl	自動車の台数	台

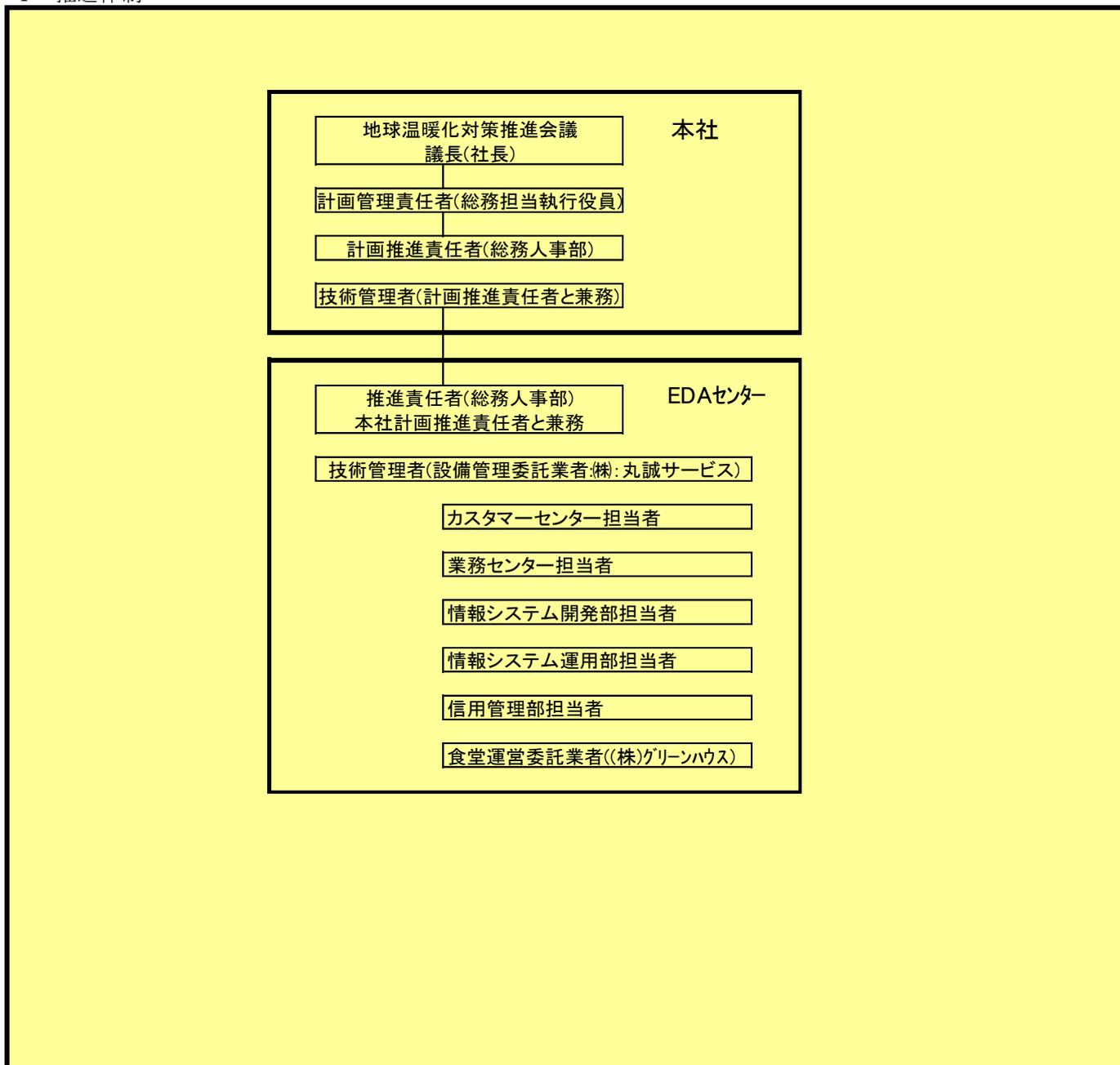
2 計画期間及び実施年度

計画期間	2016	年度～	2018	年度	実施年度	2018	年度
------	------	-----	------	----	------	------	----

3 温室効果ガスの排出の抑制等を図るための基本方針

<p>[基本方針] 計画的な省エネ機器への更新を行うほか、運用による節電対策を継続する。</p> <p>[主要なエネルギー使用設備の更新等の検討] ①更新の対象となる主要なエネルギー使用設備 チラーユニット2台およびボイラー2台</p> <p>②上記①の設備を選択した理由 設置から25年を経過し劣化が見られるため。</p> <p>③設備更新スケジュール チラー1台とボイラー2台を平成28年度に更新する。 チラー1台を平成30年度に更新する。</p>
--

4 推進体制



5 公表の方法等

ホームページ	アドレス	
窓口で閲覧	閲覧場所	ライフカード株式会社本社内
	所在地	105-0014 東京都港区芝2丁目31-19 バンザイビル 3F 総務人事部
	閲覧可能時間	10:00～16:00
冊子	冊子名	
	入手方法	
その他	2019年にホームページCSR活動で公表予定	

細則第38号様式（第2条第49号）
（総括票）

6の1 温室効果ガスの排出の抑制に係る目標等の状況（第1号及び第2号該当事業者）

基準年度 (2015年度)	基準排出量	3,389	t-CO ₂			基準原単位	0.17	t-CO ₂ /m ²
	調整後	3,331	t-CO ₂			目標原単位	0.16	t-CO ₂ /m ²
目標年度 (2018年度)	目標排出量	3,287	t-CO ₂	削減率	3.0 %	削減率	3.5 %	
排出の抑制に係る目標の設定の考え方	省エネ機器であるチラーユニット2台及びボイラー2台を更新する(28年度にチラー1台、ボイラー2台を30年度にチラー1台を計画)とともに運用による電気節約を継続実施することで排出の抑制を図る。							
事業者全体としての目標等	1事業所のみのもので事業者全体目標も上記と同様。							
第一年度 (2016年度)	排出量	3,324	t-CO ₂	削減率	1.9 %	排出原単位	0.17	t-CO ₂ /m ²
	調整後	3,236	t-CO ₂	削減率	2.9 %		削減率	0.6 %
目標等の達成状況及び説明	ボイラ2台を高性能ボイラへH28/10更新、チリングユニットを高性能チリングユニットにH28/11更新。							
第二年度 (2017年度)	排出量	3,466	t-CO ₂	削減率	▲ 2.3 %	排出原単位	0.18	t-CO ₂ /m ²
	調整後	3,262	t-CO ₂	削減率	2.1 %		削減率	▲ 5.9 %
目標等の達成状況及び説明	スポット的なシステム開発に伴い平成29年6月から平成30年3月まで約150名増員し、24時間体制で照明・空調等を使用したため排出量増加となった。 平成23年より照明の間引きは継続実施中(1483本)。							
第三年度 (2018年度)	排出量	3,155	t-CO ₂	削減率	6.9 %	排出原単位	0.16	t-CO ₂ /m ²
	調整後	2,899	t-CO ₂	削減率	13.0 %		削減率	5.3 %
目標等の達成状況及び説明	第二年度にスポット的に増員となった150名は2018年4月以降漸減し元的人员レベルに戻り、2018年9月には2台目のチリングユニットを高機能機器に計画通り更新したこと等が貢献し、大幅に削減できた。							
計画期間全体の排出状況に関する説明	平成29年度(第二年度)はスポット的なシステム開発に伴い約150名増員し、24時間体制で照明・空調等を使用したため排出量増加となったが、第三年度は通常人数に戻り、2台目のチリングユニットの更新も省エネに貢献し、排出量において第一年度比6.9%の削減結果となり当初の目標を大きくクリアできた。							

細則第38号様式（第2条第49号）
（総括票）

6の2 温室効果ガスの排出の抑制に係る目標等の状況（第3号該当事業者）

基準年度 (年度)	基準排出量		t-CO ₂			基準原単位		t-CO ₂ /
	調整後		t-CO ₂			目標原単位		t-CO ₂ /
目標年度 (年度)	目標排出量		t-CO ₂	削減率	%	目標原単位	削減率	%
排出の抑制に係る目標の設定の考え方								
事業者全体としての目標等								
第一年度 (年度)	排出量		t-CO ₂	削減率	%	排出原単位		t-CO ₂ /
	調整後		t-CO ₂	削減率	%		削減率	%
目標等の達成状況及び説明								
第二年度 (年度)	排出量		t-CO ₂	削減率	%	排出原単位		t-CO ₂ /
	調整後		t-CO ₂	削減率	%		削減率	%
目標等の達成状況及び説明								
第三年度 (年度)	排出量		t-CO ₂	削減率	%	排出原単位		t-CO ₂ /
	調整後		t-CO ₂	削減率	%		削減率	%
目標等の達成状況及び説明								
計画期間全体の排出状況に関する説明								

細則第38号様式（第2条第49号）
（総括票）

7 事業所等における温室効果ガスの排出状況

事業所等の規模 (原油換算エネルギー使用量)	基準年度		第一年度		第二年度		第三年度	
	事業所等の 数(所)	排出量の 合計(t-CO ₂)						
3,000k l 以上								
1,500k l 以上 3,000k l 未満	1	3,389	1	3,324	1	3,466	1	3,155
500k l 以上 1,500k l 未満								
500k l 未満								
合計	1	3,389	1	3,324	1	3,466	1	3,155

8 自動車における温室効果ガスの排出状況

自動車の区分	基準年度		第一年度		第二年度		第三年度	
	台数(台)	排出量の 合計(t-CO ₂)						
普通貨物自動車								
小型貨物自動車								
大型バス								
マイクロバス								
乗用自動車								
合計								
低公害かつ低燃費な車の 導入割合(%)		%		%		%		%

細則第38号様式（第2条第49号）
（総括票）

9の1 重点対策の実施状況（第1号及び第2号該当事業者）

重点対策	実施状況の判断を行う単位	基準年度	第一年度						第二年度						第三年度						
			対策状況	実施済事業所数/対象事業所数	設備の種類、実施済設備数/対象設備数	完了予定年度(実施中、未実施の場合)	未実施・非該当の理由	実施状況	対策状況	実施済事業所数/対象事業所数	設備の種類、実施済設備数/対象設備数	完了予定年度(実施中、未実施の場合)	未実施・非該当の理由	実施状況	対策状況	実施済事業所数/対象事業所数	設備の種類、実施済設備数/対象設備数	完了予定年度(実施中、未実施の場合)	未実施・非該当の理由	実施状況	
第1号及び第2号該当事業者	1	推進体制の整備	事業者全体(市内分)	実施済	1/1	—	年度				1/1	—	年度				1/1	—	年度		
	2	主要なエネルギー使用設備の更新等の検討	事業者全体(市内分)	実施済	1/1	—	年度				1/1	—	年度				1/1	—	年度		
	3	機器管理台帳の整備	事業者全体(市内分)	実施済	1/1	—	年度				1/1	—	年度				1/1	—	年度		
	4	照明設備の運用管理	事業者全体(市内分)	実施済	1/1	—	年度				1/1	—	年度				1/1	—	年度		
	5	エネルギー使用量の把握	個別票対象事業所	実施済	1/1	—	年度				1/1	—	年度				1/1	—	年度		
	6	各種図面の整備	個別票対象事業所	実施済	1/1	—	年度				1/1	—	年度				1/1	—	年度		
	7	外気導入量の適正管理	個別票対象事業所	実施済	1/1	—	年度				1/1	—	年度				1/1	—	年度		
	8	フィルター等の清掃	個別票対象事業所	実施済	1/1	—	年度				1/1	—	年度				1/1	—	年度		
	9	ポンプ、ファン及びブロワーの適正な流量管理	個別票対象事業所	実施済	1/1	—	年度				1/1	—	年度				1/1	—	年度		
	10	変圧器の需要率管理、効率管理	個別票対象事業所	実施済	1/1	—	年度				1/1	—	年度				1/1	—	年度		
	11	室内温度の適正管理	事業所	実施済	1/1	—	年度				1/1	—	年度				1/1	—	年度		
	12	地下駐車場の換気管理	事業所	非該当	/	—	年度	該当設備無			/	—	年度	該当設備無			/	—	年度	該当設備無	
	13	照明設備の高効率化	事業所	実施済	1/1	—	年度				1/1	—	年度				1/1	—	年度		
	14	事務所機器の待機電力管理	事業所	実施済	1/1	—	年度				1/1	—	年度				1/1	—	年度		
	15	機器性能管理	設備	実施中	実施済	(設備の種類) 冷凍機・ボイラ 4/4	年度		H28/10にボイラ2台を更新		(設備の種類) 冷凍機・ボイラ 4/4	年度				(設備の種類) 冷凍機・ボイラ 4/4	年度				
	16	冷凍機の冷水出口温度管理	設備	実施済		(設備の種類) 冷凍機 2/2	年度				(設備の種類) 冷凍機 2/2	年度				(設備の種類) 冷凍機 2/2	年度				
	17	燃焼設備の空気比管理	設備	実施中	実施済	(設備の種類) ボイラ 2/2	年度		H28/10にボイラ2台を更新		(設備の種類) ボイラ 2/2	年度				(設備の種類) ボイラ 2/2	年度				
	18	排出ガス温度の管理	設備	実施済		(設備の種類) ボイラ 2/2	年度				(設備の種類) ボイラ 2/2	年度				(設備の種類) ボイラ 2/2	年度				
	19	蒸気配管のバルブ等の保温	設備	実施済		(設備の種類) バルブ・ヘッダー 7/7	年度		ボイラ数からバルブ・ヘッダー数に訂正。		(設備の種類) バルブ・ヘッダー 7/7	年度				(設備の種類) バルブ・ヘッダー 7/7	年度				
	20	工業炉表面の断熱強化	設備	非該当		(設備の種類) /	年度	該当設備無			(設備の種類) /	年度	該当設備無			(設備の種類) /	年度	該当設備無			
	21	コンプレッサの吐出圧の適正化	設備	非該当		(設備の種類) /	年度	該当設備無			(設備の種類) /	年度	該当設備無			(設備の種類) /	年度	該当設備無			
	22	コンプレッサの吸気管理	設備	非該当		(設備の種類) /	年度	該当設備無			(設備の種類) /	年度	該当設備無			(設備の種類) /	年度	該当設備無			

9の2 重点対策の実施状況（第3号該当事業者）

重点対策	実施状況の判断を行う単位	基準年度	第一年度						第二年度						第三年度					
			対策状況	実施済事業所数/対象事業所数	実施済車両台数/対象車両台数	完了予定年度(実施中、未実施の場合)	未実施・非該当の理由	実施状況	対策状況	実施済事業所数/対象事業所数	実施済車両台数/対象車両台数	完了予定年度(実施中、未実施の場合)	未実施・非該当の理由	実施状況	対策状況	実施済事業所数/対象事業所数	実施済車両台数/対象車両台数	完了予定年度(実施中、未実施の場合)	未実施・非該当の理由	実施状況
第3号該当事業者	23	推進体制の整備	事業者全体(市内分)	/	—	年度				/	—	年度				/	—	年度		
	24	自動車の適正な使用管理	事業者全体(市内分)	—	/	年度				—	/	年度				—	/	年度		
	25	エネルギー使用量等に関するデータの管理	事業者全体(市内分)	—	/	年度				—	/	年度				—	/	年度		
	26	エコドライブ推進体制の整備	事業者全体(市内分)	/	—	年度				/	—	年度				/	—	年度		
	27	自動車の適正な維持管理	事業者全体(市内分)	/	—	年度				/	—	年度				/	—	年度		

10 目標対策及び事業者の発意による対策の実施状況

- （注意事項） ・ 対策の効果が重複して計上されない様にご注意ください。
 ・ 燃料・熱・電気等の使用量は、一年間での値に換算して記入してください。
 ・ 記載欄が不足する場合は、横浜市へご連絡ください。

		削減量合計 事業者総排出量		事業者総排出量 (t-CO2)		CO2排出量合計① (t-CO2)		CO2排出量合計② (t-CO2)		削減量合計 (t-CO2)					
		16.52 %		3,155		1,138.5		617.4		521					
連番	具体的な対策	事業所名	対策の実施年度 (西暦)	実施前				実施後				削減量 □(t-CO2)	投資金額		
				実施前の運用状況/設備状況	燃料・熱・電気等の使用量			CO2排出量 (t-CO2)	実施後の運用状況/設備状況	燃料・熱・電気等の使用量				CO2排出量 (t-CO2)	
					種別	使用量	単位			種別	使用量				単位
1	誘導灯を高輝度誘導灯へ更新	ライフ EDA	2011	16.5Wが41本 24Wが69本 50Wが7本	昼間買電	23	千kWh	11.8	1.5Wが37本 2.1Wが4本 2.7Wが47本 4.1Wが22本 3.6Wが7本	昼間買電	3	千kWh	1.5	10.2	3,623 千円
2	蛍光灯をLEDへ更新(1661本) +間引き(主に事務所)	ライフ EDA	2012	蛍光灯消費電力36W+安定器 消費電力7W=43W/本	昼間買電	386	千kWh	197.6	LED消費電力19.6W	昼間買電	123	千kWh	63.0	134.7	25,000 千円
3	蛍光灯をLEDへ更新(569本) +間引き(主に電算室)	ライフ EDA	2014	蛍光灯消費電力36W+安定器 消費電力7W=43W/本	昼間買電	102	千kWh	52.2	LED消費電力19.6W	昼間買電	33	千kWh	16.9	35.3	1,404 千円
4	①老朽冷凍機を高効率機器へ更新 ②老朽AHUを高効率PACへ更新 ③冷水ポンプにインバータを導入	ライフ EDA	2014	1.ターボ冷凍機3台 (R1.R2:COP5.22) (R3:COP3.64) 2.エアハンドリングユニット10台 3.冷水ポンプは吐出バルブによる 水量制御	昼間買電	1,421	千kWh	727.6	1.高効率ターボ冷凍機2台 (R1.R2:COP3.2~9.2) 2.高効率空冷PAC8台 3.冷水ポンプはインバータによる 水量制御	昼間買電	786	千kWh	402.4	325.1	327,780 千円
5	研修棟チリングユニット (R-101)を高性能チリング ユニットへ更新	ライフ EDA	2016	冷房能力307kW 暖房能力350kW	昼間買電	70	千kWh	35.8	冷房能力335kW 暖房能力355kW	昼間買電	62	千kWh	31.8	4.1	52,000 千円

連番	具体的な対策	事業所名	対策の実施年度 (西暦)	実施前				実施後				削減量 □(t-CO2)	投資金額		
				実施前の運用状況/設備状況	燃料・熱・電気等の使用量			CO2排出量 (t-CO2)	実施後の運用状況/設備状況	燃料・熱・電気等の使用量				CO2排出量 (t-CO2)	
					種別	使用量	単位			種別	使用量				単位
6	鑄鉄製セクショナルボイラー (2台)を小型貫流ボイラー へ更新	ライフ EDA	2016	熱出力747kW、ボイラー効率90%	都市ガス	47,286	m3	108.5	熱出力627kW、ボイラー効率97%	都市ガス	42,706	m3	97.9	10.5	19,500 千円
7	研修棟チリングユニット (R-102)を高性能チリング ユニットへ更新	ライフ EDA	2018	冷房能力63.95kW 暖房能力75.58kW	昼間買電	10	千kWh	5.0	冷房能力85kW 暖房能力85kW	昼間買電	8	千kWh	3.9	1.2	34,900 千円

細則第38号様式（第2条第49号）
（総括票）

11 再生可能エネルギー利用設備等の導入状況

番号	設備機器の種類	導入年度	性能等	備考
1	照明のLED化	平成25年度	40W蛍光灯タイプ 遠藤照明RAD402N 19.6W	蛍光灯タイプ 1830本、ダウンライト 180個交換
2	照明のLED化	平成24年度	蛍光灯 43w → L E D (19.6w) : 43w ×1661 個	削減消費電力量：263千KWh
3	照明のLED化	平成26年度	蛍光灯 43w → L E D (19.6w) : 43w ×569 個	削減消費電力量：69千KWh
4		年度		
5		年度		

12 クレジット等に関する取組状況

番号	種類	年度	オフセット対象範囲	特定温室効果ガス換算量	備考
1	電気の使用	2018年度	市内の事業所	256t-CO2	東京電力エナジーパートナー
2		年度			
3		年度			
4		年度			
5		年度			

13 その他の地球温暖化を防止する対策の実施状況

基準年度までの対策	平成19年度に節水型大・小便器に更新。 平成23年より照明の間引き(1483本)継続実施。 平成23年避難誘導灯を高輝度照明に更新実施。 2013年3月に建物全体の7割に当たる2700本の蛍光灯をLEDに入替実施。
計画期間内に実施する対策	チリングユニット1台およびボイラ2台を高機能機器へ更新
第一年度実績	夏季のクールビス(28℃設定)、冬期のウォームビス(22℃設定)は実施を継続。 照明の間引き(1483本)は実施を継続。
第二年度実績	・夏季のクールビス(28℃設定)、冬期のウォームビス(22℃設定)は実施を継続。 ・電話交換機の更新に当り既存機器(スチール・基盤・蓄電池等)の処分方法として、リサイクル業者へ売却した。 ・節水型設備の設置
第三年度実績	・夏季のクールビス(28℃設定)、冬期のウォームビス(22℃設定)は実施を継続。

14 実施状況等に対する自己評価

平成29年度(第二年度)はスポット的なシステム開発に伴い約150名増員し、24時間体制で照明・空調等を使用したため排出量増加となったが、第三年度は通常人数に戻り、2台目のチリングユニットの更新も省エネに貢献し、排出量において第一年度比6.9%の削減結果となり当初の目標を大きくクリアできた。
